

No. 4 . 5
合併号
1970. 8. 21

岐阜の博物館

編集兼発行

岐阜市岩戸花月町2の1
濃飛甲冑研究所内
岐阜県博物館協会

特集

“県立総合博物館建設に望む”

～今日を救い、あすを創造する、その姿を求めて～



写真：神岡郷土館・神岡城(本文26ページ参照)

特集にあたって

岐阜県博物館協会副会長

名 和 正 雄

岐阜県博物館協会が結成されまして5年を経た今日、本年から機関誌「岐阜県の博物館」を微力ながら刊行してきました。現在岐阜県の博物館施設は70近いものがありまして、歴史、民俗、芸術、自然科学、産業などそれぞれの分野に於いて資料を集めての調査研究や資料の収蔵保管、或は一般公開による社会人の教養の昂揚に努めてきました。然しながら現段階を一步前進して「生きた博物館」としての施策と博物館活動の使命を達成するには前途なお洋々たるものがあると存じます。

今回岐阜県総合博物館構想が立案されるにあたって、「総合博物館に望む」という特集号を企画しましたところ、各界より貴重な御意見を載しましたことは感謝に堪えません、厚くお礼申し上げます。

私どもは一日も早く、過去を知り今日を救い、明日を創造する生きた博物館になることを望んで止みません。

なお、謄写印刷によっていた本誌が、今回の特集にあたり、このような立派な印刷物として発行できましたことは、岐阜地区各ロータリークラブの御好意によることを申し述べ、ここに、改めてお礼申し上げるしだいです。

目 次

特集にあたって	岐阜県博物館協会副会長	名和 正雄	1
博物館と自然	岐阜大学々長	今西 錦司	3
博物館構想の前提	前県立図書館長	清 信重	4
博物館にひとこと	岐阜市教育委員会社会教育課長	伊藤 健吉	4
岐阜県総合博物館に望むこと	日本博物館協会事務局、学芸員	山崎 淳子	5
文化、社会教育、自然保護施設 として、既になくてはならぬもの	日本モンキーセンター附属博物館学芸次長	広瀬 鎮	6
県立博物館が少しでも盲人に	岐阜県立盲学校教諭、 児童文学者	赤座 憲久	8
学校教育上からの博物館の意義	前岐阜県小中学校校長会会長	杉山 勇	9
県立博物館と地学	東海女子短期大学教授	牛丸周太郎	9
人類の幸福な未来は、天文 宇宙科学の理解から	岐阜県天文協会々長	正村 一忠	10
人間生活に密着した気象学 地震学の扱い	岐阜地方気象台長	門脇 関郎	12
現代科学技術を語りかけ 生活の知恵を	前岐阜市立児童科学館長 学芸員	竹村 信弘	13
動物とともにある人類の 健全さを求めて	岐阜大学教授	只野 正志	14
「人間生活と植物」を中心に 自然保護のセンターとして	稲羽中学校教諭 学芸員	小野木三郎	16
工芸美術品の陳列について	美濃陶器美術研究家	岩井 五郎	17
歴史、考古学の立場から望むこと	濃飛甲冑研究所長 学芸員	吉田 幸平	18
県立博物館を頂点にし、地方 の施設も共に前進、共に研修	秋神温泉旅館経営主	小林 繁	23
わが国博物館界育ての親 棚橋源太郎伝(4)	長森中学校教諭、学芸員	宮崎 惇	24
博物館学メモ② 博物館の定義			25
館・園紹介 神岡郷土館・神岡城			26
館・園ニュース			28
事務局より			28
編集後記			30

博物館と自然

岐阜大学々長

今 西 錦 司

県政100年記念事業には、私も相談にあずからせてもらったが、その結果として「総合博物館」という案が採択されたことは、まことよこばしく思っている。理想的な総合博物館の実現を、心から望む次第である。

しかし、この記念事業の一つとして、私の提案したのは、総合博物館ではなかった。博物館も結構だが、それはけっきょく人工物にすぎない。博物館にはなんでも集めてある。たとえば美しいチョウチョウの標本が並べてある。小学生のころにこれを見て、あきれいだな、自分もあんなチョウチョウを集めてみたい、と思ったことがある。たしかにこれらのチョウチョウは人工物でなくて、自然物である。しかし、ほんとうの自然のチョウチョウは、こんなにきれいに展示されたり、ガラガラの箱にはいたりしてはいない。

私はさいわい、自分でもチョウチョウの標本をこしらえようと思って、自然にわけ入り、自然のチョウチョウとはどんなものかということを知ることができたからよかったが、博物館に展示されたチョウチョウだけみて、自然のチョウチョウを知らない人間が、これからだんだんふえてゆくのでなかるうか。博物館に、自然を紹介するという意味での教育的価値を認めるとしても肝腎の自然そのものが、もはやどこにも見当たらないというようなことでは、なにを教育しているのかわからなくなってしまふ。

そこで私の提案というのは、ゴツリひと山、山麓から山頂まで買いこんで、一切人工的施設をほどこさない、つまり、はいこれが自然というものでございます。というところをつくりなさい、というのであった。こういうものが片方あってこそ、博物館の陳列標本にも意義が生じてくるのだ、というわけである。もちろん総合博物館の一部分である自然博物館を指して、いっているのである。

しかし、そこまで考えてくれる人は、ほとんどいなかったし、そんならそういう適当な場所があるかと聞かれたら、私も困るところであった。ところがその後私は三方崩山という山に登って、ああ適地がこんなにも近いところにあったのかと、おどろき、私の提案はやっぱり早く、どこかで取りあげてもらわねばならない、と思うようになった。

どこへ行ってもチェーンソーがうなり、山はまる裸にされつつあるのに、この山は山麓から山頂まで、みごとな原始林でつままれていた。私は、これはなにかの間ちがいでなかるうかと思ったほどである。自然が破壊されてから自然保護を叫んでもおそい。いまのうちにこの山をゴツリ買って、博物館へ寄附してくれるような人が、どこかにいないものだろうか。



博物館構想の前提

前岐阜県立図書館長

清 信 重

県立総合博物館ができる、という皆さんの熱望と期待に対しては、私は大いに敬意を表します。しかし、本当にそんな計画が、県の行政のうえて、進行しているのでしょうか。残念ながら私の耳には、そうした計画をきいてはいません。たいへん残酷ないい方ですが、総合博物館という看板そのものすら、私には実体がわかりません。おそらくみなさんは、人文、自然を総合して、とお考えのようですが、私はそうした収集がすでにどこかにあり、そして、それを一つにまとめればそれが可能である、という事実を知りません。

博物館をつくる、という構想の前には、すでにその中身とすべき資料がある、という前提で考えるべきです。まず建物をつくって、それから資料を集める、というのでは、本末転倒です。建物は一年で出来るが、その収蔵資料は7年もかかる、というのが私の自論です。従って、現在収蔵されている資料調査から、博物館の構想はきまってくるのが常道だと考えています。

博物館にひとこと

岐阜市教育委員会社会教育課長

伊 藤 健 吉

理想的な博物館の構想を描くことは、博物館関係者なら誰でもできよう。法が明示しているからである。日本の法律という奴は概して理想立法が多く、何か一つの理想的目標を法として規定しておいて、そこへ現実を追いこんでいくというやり方である。憲法がその標本である。

GNP自由世界第2位と誇号されても、ともすれば赤字財政に悩む地方自治体は、職員の給与のベース・アップすら思いにまかせぬ状態のもとで、それ校舍建築、それ道路改修と追いまわされて、理想的な博物館を建設するなどと言えば——まことに結構なことだが——と、簡単にいなされてしまう。

誰も反対するものはないし反対する理由もない。そこにむづかしさがある。

レングラードだけで、美術館が1.500ある——と聞かされると、誰でも、ホーと目をむく。西欧は古いものを大切にすることが、まづ第一という伝統を持っている。古い生きた宗教的伝統のなかに生きて来たからである。

岐阜県が百年記念に博物館を計画されているときく。心からその実現を祈りたいが、建設に当っては、世界と日本の博物館を十分究めつくし、衆議をあくまで汲みとって計画されねばならない。建築家必ずしも万能ではない。建築設計家の造型的な夢を尊重しすぎたために、形は芸術的

ではあるが、機能的に極めて不都合といった場合が余りにも多い。せっかくの公費が十分生きて働かないということであろう。

その原因は、移動によって着任した事務官が、何れ専門的知識なしに、使う側の意見を十分聞かないところにあると思う。例えば、博物館は、陳列のスペースだけあればよいというものではない。附属、補助の建物が十分ない限りその機能は生きてこない。たとえば、倉庫、会議場、図書室、研究室、荷造室、審査室など、保管、研究、相談、搬入搬出、物品移動についての労力省略と盗難、破損防止の施設など特に重要である。

博物館は、大衆のための陳列研究を主とするが、それは観光材と混同され易い。しかし高度の専門性をより多くもっているところに、その価値がある。

職員組織に十分な専門性、恒久性を持つことが必要であろう。

県の場合、ジャンル別のものを考えるより、総合博物館機能を考えることが必要である。

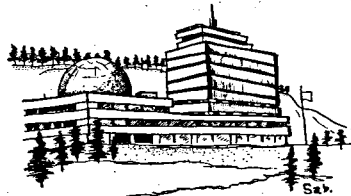
歴史、芸術、民俗、産業、科学のすべてを抱合した総合的なもので、しかも岐阜県の特徴をより高度に生かし、時代の要請を将来に向けて育てる様な機能がほしい。

なお、郷土には各地に、独立した博物館が古い歴史を持って、それぞれの立場から社会に貢献して来ている。その深い専門性を充分尊重し、総合博物館の運営に深い造りかけを持たせなければならぬ。

岐阜県総合博物館に望むこと

日本博物館協会事務局

学芸員 山 崎 淳 子



明治100年を記念しての文化施設の建設が各地でさまざまな形をとってあらわれ、博物館建設の槌音もあちこちで響きだし、「明治100年」という言葉はいろいろな意味合いがあるにせよ、少くとも博物館界にとっては明るい展望といえるだろう。

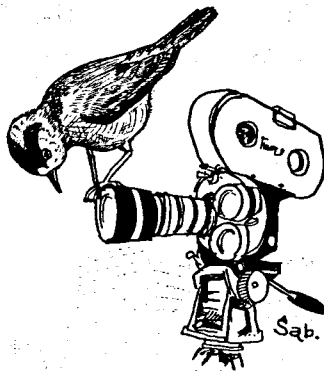
岐阜県といえば博物館育ての親ともいえる棚橋源太郎先生の御出身地でもあり、今まで県立博物館がなかったということの方が奇異に感じさえるが、岐阜県でも「置県100年記念事業」として、県立総合博物館建設の計画が進められていると聞くことは、誠に喜ばしいことです。県立博物館ができることは、その地域に博物館連合体としての支柱を打立てることになり、より活発な活動への展開が期待できるであろうから。よりよい博物館が一館でも増すことは博物館界にとっては一層力強い前進といえるでしょう。

「県立総合博物館に望むこと」を何か書くようにとの依頼を受けましたが、岐阜県にどんな博物館をたてたらよいのか、岐阜県自体を知らない私には非常な難問です。

博物館新設のための班に加わったり、話しを聞いていて、博物館界の先人が建設に当って多くの教訓を残してくれています。何より大事なのは「人」だということです。博物館建設の当初

から、経験のある学芸員がスタッフの一員に加えられることは非常に少ないことで、とかく「博物館とは建物である。建物ができたら9分通り完成だ」と、中の資料のことなど目もむけなかったり、「建物はできたが、ケースや展示に要する予算がつかなくて困っている」等となんとも奇妙な話を聞くことが多々あるにつけ、準備事務局を作る時のスタッフの構成に充分意を用いてほしいと思います。とかく学芸員は出来あがってしまった博物館に入ってから、ここが、あそこがと活動の妨げになる部分に気づくことが多いようです。博物館活動を推進する核となる学芸員が建設の当初から加わっていることが最も望ましいことでしょう。

その上で「どんな博物館を創るか」という博物館の方向が、資料が検討され博物館の思想ができあがっていくのでしょう。資料の検討と、展示計画ができあがって、建物の設計に入るべきで、賢明な館ではこの方法で博物館の建設と取り組んでいる。よりよい博物館にするために、このセオリーを間違えてはならないでしょう。そしてこの過程こそ、学芸員がその手腕を発揮すべき舞台だといえるのではないのでしょうか。よき人を得られることを第一に期待したい。岐阜県博物館協会の方々を中心に、先輩館の多くからさまざまな問題を学び、よりよい博物館への足固めを始めている時、今まで運動を進めてこられた岐阜県博物館協会の方々の一層の御健闘を期待します。（日本博物館協会）



文化・社会教育・自然保護施設 としてすでになくはならぬもの

財団法人 日本モンキーセンター附属博物館

学芸部次長 広瀬 鎮

岐阜県に総合博物館建設の気運が高まっていると伺い、博物館人の一員として本当に楽しく思っている。関係者の方々や、岐阜県博物館協会の方々の今後の御苦労は大変なことであろう。

県立のしかも総合博物館ということになると、必然的に大規模、そして特徴のあるものということで衆智が求められるに違いない。その事は重要なことではあるが、元来岐阜県ほどの文化界に総合博物館の一つがなかったという事はかねがね残念に思ってきたことの一つである。県民が真に望む文化施設・社会教育機関、文化財保護施設としての殿堂は、住民の総意から導き出されるものであってほしいと思わざるをえない。

博物館という言葉からその古めかしい過去のイメージにとらわれる人達は、実に多い。これはあやまりであり、博物館自体が文化館と呼ばれようと、科学センターとよぼうと、今日の博物館の多くは、すでに大きく体質を変えようとしているのである。

岐阜県の総合博物館の機能は、岐阜県の多くの方々が模索し、ひき出してくれるにちがいない。その中で一番忘失されるのが、自然・人文文化財の巨大な収蔵庫、文化財保護センターとしての機能であろう。県下の過去から未来におよぶあらゆる価値ある文化資料はそのいれものにおさめられて行かねばならない。

基本的な考え方、つまり博物館、資料の収集、保存が第一義的になくしては、博物館は将来の社会人教育の大学となりうることは出来ない。又同時に、我々をとりまく自然、特に広大な自然保護区といった自然そのままの後世への保存地帯を、文化財、自然材として構想し残して行く必要がある。そして自然保護センターとしての博物館の機能も果していくべきであり、博物館は単なる施設では、もはやないのである。

一口に博物館資料といっても、それは多種にわたっているが、岐阜県の場合、自然史に関する資料の総合的な収集が、今後とくに進められて欲しい。過去に名和昆虫博物館は偉大な業績をのこし、又今後にもその事業の発展が約束されている。それだけに、他の自然科学研究の実績は、かげがうすくなっていたように思える。自然史関係についての地味な資料収集や研究は、各種研究団体、同好会によって推進されていた事実も知っている。ぜひとも、我国におくれた自然史科学博物館部門こそを充実されんことを望みたい。

今日の公害や自然保護問題を正しく理解させるためにも「自然」を人々に知ってもらいたい。その役割りを、博物館が果してくれるのである。こうした我国におくれた博物館の自然史科学部門を引上げて行くことも、特色ある博物館を望む考えの中にも忘れて頂きたいのである。

新しい時代の博物館は、その資料の展示においても、教育事業においても著しく進歩して行く。その中であって岐阜県の博物館は人々は自由に学び、資料を利用し、研究することが約束されねばならないだろう。従来の博物館であきたらぬもの、それはすべてが受動的な見学者の姿であった。これからの博物館を生涯教育の場とし、利用者自身が、自己の形成、向上のためにも活用できる施設であり、そのための専門の博物館教育者が、何10人という博物館県民大学であってほしい。

さらに多くを望むことは容易であるが、その実現は、県のあらゆる社会・経済・政治関係の中で、幾多の曲折を経てすすめられて行くであろう。だが忘れてたくないのは、はじめに申し上げたごとく、岐阜県には、総合博物館の一つはすでになくてはならなかったものであったかも知れないということと、今こそ、その一つの実現が果せるのだという決意のようなものを意識することではあるまいか。

県立総合博物館をもたぬ、愛知県犬山に(木曾川一つへだてた)10年余も住む一人の住民として、岐阜県総合博物館建設の進展をうらやましく思うものである。

ありがとうございました

本協会発足以来、会長として御尽力くださいました松尾吾策岐阜市長は、健康上の都合により、惜しまれながらも、市長の職をおやめになりました。当協会としても、これ以上会長をお願いすることはできなくなりました。

今後の御多幸と御健康をお祈り致します。

岐阜県博物館協会

県立博物館が少しでも盲人に……

岐阜県立盲学校教諭

児童文学者 赤 座 憲 久

盲人のための植物園が、日本にも外国にもある。におう花、点字の表示、さわることのできるような植えこみといったふうに。

わたしは、盲生徒を修学旅行につれていくとき、音、におい、そしてさわることができるようにとねがう。

たいてい、七重の腰を、八重九重に折つたのむと、どんなものにもさわらせてもらえる。これは、盲生徒の引卒者という、あまえではないかと、気おくれがしないわけではない。

でも、視覚以外の感覚をはたらかさなければ、全く無意味なのだ。たいてい、博物館というのは、みるための陳列場である。とすると、盲人には無縁のものということになる。

県下に数千の盲人がおり、県立の博物館ができるとしたら、その博物館を、盲人に無縁のものとしたくない。

憲法第26条に、誰もが、その能力に応じて教育を受ける権利を有すると、明記してある。博物館が、ひろく社会教育の意味をもつものであれば、いっそう、この条項にみあうような、能力に応じて、つまり、視覚以外の感覚をはたかせて、いくらかでも、益を得るものでなければならぬ。

「手をふれるべからず」というはり紙は、第一に盲人がしめだされている感じた。

むやみやたらにさわられては、たいへん困るものもあるうが、誰かが立会して、そうっとふれさせたらどうだろうか。

たいてい、音を聴くようなものが、あるコーナーをしめていても、よくはないか。

ほんとうをいえば、目あきでも、さわったり、聴いたりしないと、完全につかむことはできない。

見えたから、すべてわかってしまったような気になることが、目あきには多い。視覚が対象把握の全部になりやすいからだ。

考えてみれば、視力だけでつかむということほど、あいまいなことは、ないかもしれない。触覚、聴覚、嗅覚、それらのすべてを動員して、はじめて、ほんとうにつかめたといえるのだ。

だから、「手をふれるべからず」は、一部把握にとどめよということになる。

わたしが、ここで盲人のために、さわることができ、聴くことができ、嗅ぐことができるようにというのは、盲人だけのことではなく、目あきにも、たいへんいいことだとして、歓迎されそうなのだが如何だろう。

もし、すべての陳列品を、すべての感覚に解放することができないとしたら、同じようなものを、二段がまえに陳列する必要がおこってもいい。こののは、見るだけのため。こののは、大いにさわってもいいもの。— というふうに。

博物館が、目だけのものでないように。県立博物館へのねがいである。

学校教育上からの博物館の意義

前岐阜県小中学校長会長

杉 山 勇

県立総合博物館の設立は、遅いといえば確かに遅いと思われるが、他県にすぐれた立派なものができれば、遅いことが却って幸いして、今までのマイナスを取りもどすことになる。教育日本一を旗じるしにする本県にとって恥じないものが、新設されるように望む。

図書館と博物館は、現代の学校教育上に欠かせないものになってきた。特に学校図書館は、今日ではどの学校にも大なり小なり設置され、その内容や運営にも研究が進められてきた。中にはすばらしい成績を上げている学校が本県にも数多くあることはまことに喜ばしい。

しかし博物館に至っては皆無といってよい。学校の一週に郷土から、何かの機会に掘り出したものや、郷土の生物の標本が陳列されてあることはしばしばある。これでは博物館的な教育価値を発揮しているとはいえないし、これらの資料を有効に生かしていない。まことに惜しいことである。

中には郷土館とか郷土室とか名づけて、社会科の資料室のようなものもあるが、その内蔵されているものも系統的な研究材料としては貧弱である。

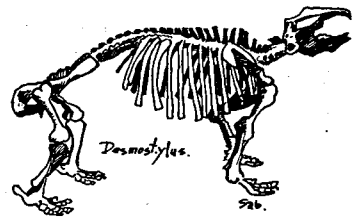
これらを一箇所に集め、専門家の指導のもとに、保管整理し、本来の博物館教育上に資することができたら、あたら有益な資料の散逸も防げるし、十分に生かすことにもなると思う。博物館設置の必要が学校教育の上からも望まれる次第である。

社会教育上は別として、学校教育上博物館活用の具体的な内容面については、私なりの意見も述べたいが、スペースの点もあろうから、次の機会にゆずりたい。（口述）

県立博物館と地学

東海女子短大教授

牛 丸 周 太 郎



昨年秋、蛭ヶ野から少し北へ行った荘川村大字野々俣字御手洗の国道に面したところに漣痕が発見された。発見のいきさつは土木業者が土砂採掘のため雑木林を切りはらい、岩盤を露出させた結果で、約70平方メートルの長方形の一枚板の粘板岩の岩盤の表面にさざなみの形があざやかに浮彫にされている。1億4千万年前、このあたりが海岸の静かな波打ちぎわであったころにできた波のあとで、そのすぐそばにはゼノクシロンの流木や、ホルセラの貝殻などの化石が発見された。

漣痕は富山県境に分布する手取層群中にもあるが、場所が辺鄙なため、その目的以外の人たち

には縁遠いものである。それにくらべれば今度の発見は国道のすぐそばであり、蛭ヶ野高原・御母衣ダムの観光地をひかえてまことに良い場所である。私は何とかしてこれを県指定の天然記念物にもっていきたいと考え、業者との交渉を村の教育委員会の担当者に依頼して帰ったが、残念ながら交渉は成立せず、あたらこの天然記念物も破壊される運命となった。私は考えた。もし岐阜県に博物館があったなら、たとえ1メートル四方の岩盤でも貰い受けて陳列することができるのにならと。

その場所から少し北へ行くと牧戸があり、そのすぐ北隣に牛丸がある。御母衣ダムができる以前、そこの庄川の川底に露出していた8畳敷き位の岩盤一面にシジミヤカキの化石がついており、県指定の天然記念物になっていたが今は湖底に沈んでいる。そこにそんな化石が産出したことを記念するため、その1塊が採掘されて残されたが、これも博物館さえあればそこに陳列でき、皆さんに見て貰えるのに残念でならない。

土岐市久尻から出土したデスモステルス科の動物の全骨格にしてもそうである。この科に属する動物の全骨格は世界に二つしかない。しかもその二つとも日本にあり、その一つが岐阜県から出土したのである。これを完全に保存展示できる施設さえあれば、その所有権をめぐってのいざこざにも、もっと強く出られるのではないかと考えている。

岐阜県には古生代から新生代にわたる各時代の化石も多く、また日本列島の成り立ちに大いに関係があって問題になっている飛騨片麻岩をはじめ各種の岩石があり、それらに伴う鉱物資源もまた非常に多い。名称は知っていても実体はどんなものであるかを知らない人が多く、またそれを知っていてもどんな役に立つかを知っている人は極めて少ない。

私は県立博物館を作る以上、私の専門である狭義の地学(地質学)に関する色々な資料を陳列していただきたいのは勿論であるが、それが人生とどんな関係にあるかを示す図やグラフの類も同時に展示していただきたい。また地下室なども設けて、陳列しきれない標本類を収蔵しておく場所や、作業室もほしい。

私は博物館については全くのしろうとで、博物館を見学してもただ陳列してあるものを見て歩く程度で、その運営については全然知識がない。運営は運営でまたその道のベテランがあたるとして、そこへ行けば岐阜県の人文・自然に関する何でもが見られるような博物館がほしいものである。



人類の幸福な未来は

天文・宇宙科学の理解から

岐阜県天文協会会長

正 村 一 忠

置県100年記念事業として県立総合博物館を建設の計画がある由で、私にも天文学の立場から要望を書くことを依頼されたが、博物館については門外漢であり、当を得た文章も書き得ないが、思いつまま与へられた字数で責めを果したい。

総合博物館というからには、自然科学も人文科学も、それぞれとり入れて企画されるであろうが、事業に金はつきもの、どれ位の建設費、どれ位の運営管理費を考慮してなされるのか、その予算の枠がしっかり決ってからでない要望の範囲も、200吋望遠鏡で見うる果ての宇宙の外をさぐるようなもので、まとまりもつけ難い。産業技術の急速な高度成長が、公害を私達の身近にまき散らし、自然界の神秘にヴェールをますます濃くしている感があるこの頃、自然界への人々のあこがれは異常な程、関心をたかめていることは否めない。私は総合博物館を作る上に於いては少なくとも自然科学部門に重点を置いてほしいと考える。

自然界で最も巨大なるもの、めまぐるしい変転のこの地上界に豊かな情操をはぐませてくれる一つに天文学がある。

世界的なテンポで社会は急速な変遷をしてゆくだろうが同時に人類は同じ速度で宇宙開発を進めてゆくに間違いない。今世紀の終り頃には人類は太陽系内の物質空間、エネルギーにつき素晴らしい活用の時代に入っているだろう。

100万KWの発電機を1億7千万基フル運転をしただけのエネルギーを刻々地球に降りそそぐ(太陽)これ一つをとっただけでも、これからの人類の前途は、亦人々の生涯教育の場は天文学に対する理解を深めることは大切なことであることは論をまたない。

総合博物館のシンボルは宇宙科学を中心としたものであることがこれからの時代に最も好ましい形態であると考え。今吾々が、現実に見ることが出来る星の世界は50億光年の彼方である、その巨大なる世界の資料を蒐集し、保管し研究し、展示し利用するという事は誠に至難なことであるが、県は企画の立場から、思い切った予算を天文教育施設のために割いてほしい。

私は少ない予算を割いて、チャチな教育設備を個々の学校に配分するよりか、総合博物館で素晴らしい設備と機能を備え、それを活用させてこそ学校教育に於いても正常な教育の場として生きてくるものと思う。

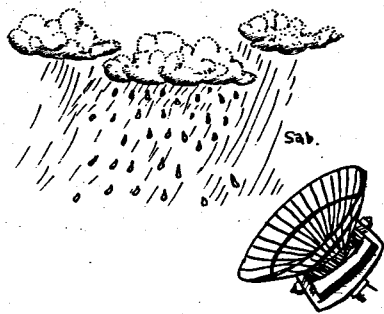
現代の天文学(宇宙科学)は現代科学の最先端を綜合する学問である。

ロケットの設計組立運行これ一つをとり上げて想像がつくことと思うが、私はこの総合博物館における天文学の立場は、人間生活との関連性を充分に表現出来るものにしたいと思っている。

ただ物を展示するというに留まらず、自ら自然に接し、考え、これを各自の生活に精神的にも物質的にも有用にとり入れられるような方式を考慮してゆかなければならないと考えている。

紙面に限りがあり、個々の具体例につき述べることは、何かの機会に譲るが、総合博物館といえども総花的になつてはならない。

何が我々の人生に、時代に緊要なのか、何が効果をもたらすかを充分に配慮する必要があると思う。私は天文部門を併設した地方の科学館が形許りで、天象の変化に対応する夜間開館をしてない所が多いことや、開館するにも大変面倒な手続きを経なければならぬので自然不活発になっている処を往々見受けるが、新しい科学情報が寸刻で、入手される時代にマッチした総合博物館は、たえず内容の充実と、人々に新しい智機と情報を伝える機敏な機能を充分発揮されるように企画されるべきであることを強調して、名実ある博物館が一日も早く実現することを切望する次第である。



人間生活に密着した 気象学・地震学の扱い

岐阜地方気象台長
門 脇 関 郎

岐阜県立総合博物館の建設計画があるとのこと、誠に喜ばしいことである。この博物館に望むことについて私の意見を述べるチャンスを得たことは、岐阜県で業務を行っている者にとってこの上もない喜びであります。

さて岐阜県は昔から水害に苦しめられた土地であることを考えて見ると気象災害から見る特徴のある県と申せましょう。最近では昭和43年8月の飛騨川、長良川の集中豪雨に際しては、バスの転落事故を引き起し、水害を通じて岐阜県の名を全国に広めた感があります。

また地震については明治24年の濃尾大地震では5,000人の死者を含む大災害を生じております。この地震で根尾村には美事な断層を生じましたが、この断層の写真は世界中の地震の教科書に掲載されているといっても過言ではありません。この地震を契機として、日本の地震の研究が誕生したので岐阜県は地震に対しても因縁の深いところ です。

このような環境にある岐阜県に総合博物館が建設されると聞くと、その一角に気象学や地震学の部門をもうけてもらいたいという強い要望が気象地震の業務にたづさわる者として当然のことながら湧き上がってくる。そして気象地震の部門をもうけることは県民に対しても意義深いものがあることを確信する次第である。

私は博物館についての知識は貧しい方であるが、過去において全国を廻った記憶をたどって見ても、気象学や地震学の部門については、これ等についての災害の展示はあったように思われるが、これ等の部門について全般的に取り上げている博物館などは無いのではないかと思います。こんな時に県立総合博物館を建設するに当っては、是非とも気象学や地震学の部門を頭初の計画からはっきり取り上げていただきたいものと熱望する。

気象学や地震学の部門を博物館の一角に取り入れるとしてもその展示物や展示内容についても中々工夫を要することである。色々な考え方があろうと思ひますし、具体的な計画の段階で考える問題であるが、今私の頭の中に浮んでいる試案的な考えを述べて多少でも博物館建設の参考になれば幸甚と考える次第です。

1. 気象学について

ア 気象の一般的知識

一般の方々には、気象現象についての知識が不足していると思われるので、気象の基礎知識が目で見え気楽にわかるような説明図、写真および測器等の展示が必要であらう。この際岐阜地方気象台や高山測候所で設備されているものは何時でも見ることが出来るので簡略にしても良いと思う。

1. 天気予報、気象警報等の利用について

一般の方々には天気予報を利用し、気象注意報、気象警報による防災対策は大事であるのでこの様なコーナーを考えて見たい。

ウ 台風、大雨

災害の横綱はなんといってもこの二つであるが、台風は実物の展示は望めないで説明図等によるとして、大雨については岐阜県全域の地形の模型に一時間雨量10ミリ程度の大雨の降る装置を造ったら、雨の強さの実感もわかり、雨の水害との関係もわかって面白いのではないかと思う。

2. 地震について

ア 防災的見地から

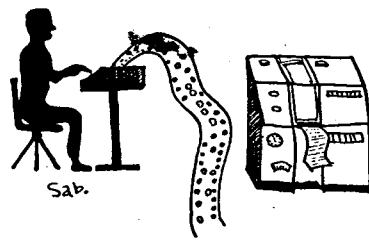
地震は目に見えず、説明も中々むづかしいものであるから防災的見地から濃尾大地震の根尾谷断層の模形を中心に地震の正体の説明とその防衛対策を図や写真等で説明してはどうだろうか。

イ 地震の体験

岐阜県では有感地震は年数回程度しか起らないので、地震動に対する体験は少いと考えて良い。地震動に対する体験を得ておくことは、地震の際に心の平静を保つのに有効であると思われるので、振動台をつくって参観者に色々な振動の体験を得させたら有効ではなからうか。

現代科学技術を語りかけ 生活の知恵を！

前岐阜市立児童科学館長
学芸員 竹 村 信 弘



近来、科学技術の加速度的発達、世の中のあらゆる面で急激な変革をもたらしています。その結果として、人間には、この変わりゆく社会に適応して生きてゆくための生涯教育が当然必要となってきます。又一方、労働時間の短縮、それによるレジャー・タイムの増大ということも必至であります。以上の二点から考え、博物館こそ時代の要望にびったりのものだと思います。その中でも特に、現代科学技術を一般人にわかりやすく説明し、又興味ある問題として青少年や一般人にはたらきかけることのできる理工学部門の充実こそ、

一口法規

第三条〔博物館事業〕

6. 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書を作成し、及び頒布すること。

博物館建設にあたって最重要部門として取りあげるべきだと思います。

私は多年、博物館のデパートというのを夢みていました。博物館のデパートといっても、これは私が勝手につけた名前で、博物館ならなんでもあるという意味です。いろいろの博物館が近くにかたまっているのです。そこへ家族づれで行って、子供は科学館と科学教室へ、お父さんは郷土館へ、お母さんは〇〇展へというように、家族のすべてのものが好み好みによって、たのしく一日中勉強できるような社会教育の場があったらと思うのです。この様な総合博物館の設計にあたって、私は次の三点を要望したいと思います。

第一には、総合博物館は各部門で入口を別にする。ということは、入場券を別々に発売するという事です。総合博物館となれば、ある程度高い入場料金となるでしょうが、各部門別となれば比較的安くてよいだろうし、そうすれば、例えば附近の子供たちが安い料金で自分の好きな部門だけを見学できるわけです。又、理工学部門と美術部門を比較するとき、来館者の質といい、見学態度といいおのづと違いがあるからです。

第二には、交通の便がよいということです。公立となれば、比較的安い入場料金で利用ねがわねばならない。ところがそこへ行く交通費に入場料金の何倍かのお金がかかっては意味がない。このために、博物館の敷地が十分広くとれなくても止むを得ないと思います。今は、自動車があるので郊外遠くでもよいという考えは民間レジャーセンターの考え方だと思います。

第三には、博物館は展示室だけが博物館ではないということを充分考えて設計する必要があると思います。展示室の外に倉庫、研究室、作業室（展示品の修理や製作の場所）が必要であるし、又種々の博物館事業を行なうための、講義室、講堂、科学教室といったもの、遠足の生徒の食事をするところ等充分スペースを考えなくてはならないと思います。

総合博物館の中の理工学館についてはやはり、科学技術関係の展示が主になると思います。ここで来館者は、急速にかわりつつある世の中を生きてゆくための生活の知恵を身につけることでしょう。自然史部門については、不必要とは申しませんが、どうしても展示が静的になり、来館者の興味をひかせることがむづかしいものです。ここで、一つ申しそえたいのは、現在岐阜には、名和昆虫博物館、岐阜市児童科学館等その方面では歴史のある館がありますので、これらを併合する方途を考えるべきだと思います。

とに角、現在岐阜県には一つも県立博物館がなく、まことに恥ずかしい事だと思います。

以上申し述べた構想が一刻も早く実現することを切望致します。

動物とともにある

人類の健全さを求めて

岐阜大学教授 只野正志

岐阜県100年記念事業の一つとして総合博物館の建設計画がある事は大変よろこばしい。しかしコンピューターと公害におしまわれ、突然思いがけない未来がやって来る今日、それに適

応した博物館の設立はよほど思いきった動的な考えの許に事が運ばれないとすぐにほこりを浴びてしまう恐れがある。

吾々が現在必要とする博物館、それはやはり未来につながる体系のあるものを考えたい。激変する未来を予測しそれと過去を関連づける事は極めてむづかしいが、これらをいくらかでも満足させる事の出来る博物館の設立は既存の博物館にない意義をもつ事になるであろう。

動物学専攻の私には今迄一度も博物館の必要性を感じなかったし、また現在の様に生命現象の探究が分子のレベルで行われ、学問の境界が無くなったり変えられたりしているせいかますます縁遠いものになっていく様な面も少なくない。

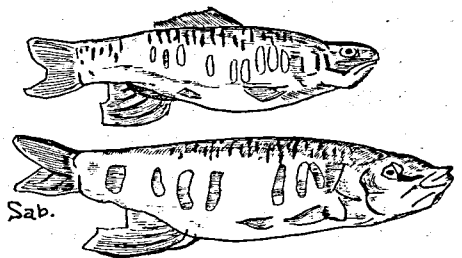
この様な立場から博物館の未来像を少し考えてみたい。それは研究機関、教育機関、そして保存機関の三者を横に平等に存立させる必要性もある。しかしものによってはこれらが密接に縦のつながりをもたせる事が必要の様である。判り易い例としてライ鳥をあげてみよう。誰もがライ鳥を知る為には剥製標本の保存が必要となる。この飼育のフィルムがあれば一層よいが、同時にこの分類学的位置、正確な生態研究も必要であろう。特殊な生態を示すものにはやはり他のものと違った体の構造、機能、生理学的特殊性があるはずであり、それに伴う病気もあろう。従って博物館はこれらに関する出来るだけ豊富な内外の文献、情報の蒐集を行わねばならない。加えてこの様な特殊な動物になると自然の破壊と公害に対する関係即ち未来に向っての研究を必要としてくる。

この様に科学館的要素をも加味された博物館はかなり次元の高い研究機関を設置するかまたは他にその関連を求めなくてはならない。

以上の立場を教育の面から考えてみると、これらの成果を第三者が学べば小、中学から大学教育までの可能性が出来る。研究と教育が表裏一体であり、若い者には夢、壮年の人には研究と教育の場、老人には現在への理解が深められ急変してゆく社会の誰もが必要とする博物館となる様に思われる。この様なしくみの中に過去の動物、化石が保存されるならば化石としての認識が新たになるであろう。そして現存の有意義な動物を一種類でも絶やしてはいけない事も理解されてこよう。このようにして真の保存ができ、博物館は最も有機的な保存機関になるであろう。ともかくライ鳥やホテルが健全である事は人類の心身が健全である事の証明でもあるから。

県立博物館ともなれば地方色豊かな事を希うがこれに偏重しない様にしないと博物館の意義を失う。ともかくほこりと密閉された硝子のケースを連想させるような博物館のイメージを破り博物館で得られた動的な知識が弾力的に活用し得る状態のものにしたい。

要するに小、中学生から大学生、そして一般社会人まで生涯教育の場として急速に発展する科学を具体的に学び得る様に事が新しい博物館の存在の意義ではあるまいか。



「人間生活と植物」を中心に 自然保護のセンターとして



各務原市立稲羽中学校教諭

学芸員 小野木 三郎

失なわれつつある自然を取り戻そうという運動が、全国的に市民運動として広まりつつある今日、現在から未来に生きるわたしたちにとっては、人間と自然 — とりわけ人間と緑の植生との関係は、人生、世界観、思想の基盤になるものとして、正しく理解しなくてはならない重要な根本問題である。今、そうした人間生活と植物との結びつきを、ほんとうに正しくわかりやすく、国民大衆のひとりひとりに知らせることこそが、専門の研究機関大学では果し得ない、社会教育機関博物館の最大の務めではないだろうか。

そのためには、植物フロアではまだまだ日本の暗黒地帯である岐阜県にあっては、この大地の緑の着物、すべての生命の基盤である植物の分類、分布、生態学の研究所としての使命も持たねばならず、郷土岐阜県の植物標本の収集と植物フロアの究明を果さねばならない。日本の中央に位置し、暖帯林と温帯林との境目にあたる本県は、飛騨に位山分水嶺をもって裏日本性、表日本性植物も入り混じっているかと思うと、標高3,000メートルに達する高山植物群落まで見られ、(ほとんどの高山植物は、日本では岐阜県が分布の西南限界)、日本では他に例を見ない。パレットに富んだ植物の宝庫、日本を代表する木の国、山の国、緑の王国なのです。

したがって、県下から収集された確かな実物標本をもとに、写真、模型、図版、映画などの資料をフルに活用して、ともすると忘れられがちな、植物と人間との総合的な関係について、あくまでも郷土岐阜県全体を扱いながら、その過去、現在、未来の姿を、博物館内に描きだし、人々に語りかけ、問題を投げかける — このことが、県立総合博物館における植物部門の全てではないだろうか。

具体的には、世界の植生の姿とその中の日本の特色ある植生の概要を手始めとして、まず岐阜県下の詳しい植生を、だれにもわかるように展示すべきであろう。万博会場のいたるところで、常時上映されていたように、カラー映画によって、県下に見られる様々の特色ある植生の紹介、しかも、四季折々移り変わる自然の姿の上映など、ぜひ実現させたいものである。その他の展示内容としては、詳しく述べる紙面もなく、項目程度になってしまうが、まず、地球上のすべての生物と同じように、人間もまた、この大地に緑の植生があるからこそ生存することができること、すなわち、植物の有機生産の光合成過程の展示とともに、その植物を基底とした調和ある自然界の物質循環のしくみ、植物自身の進化、そして、植物利用の歴史と現状の問題点、自然界の調整者としての森林の姿、植生環境と人間の文明、人類の未永い繁栄のための緑の自然の正しい開発と管理、保護のあり方 ……………などが考えられるし、こうしたことこそ、大衆大学として、国民、県民に開放される社会教育機関として、今日を救い明日を創造する県立総合博物館内での、

植物部門の本筋があるのではないだろうか。

人口が増大し、都市が発達、産業が進んだ今日、わたしたち人間自身が、物質面だけでなく精神面においても、健全な生活をしていくためには、生物社会の秩序ある調和の姿を正しく知り、自然の緑と、それに被われた大地とを、いかに永続的に利用し管理していくか、このことがもっともさしせまった問題であり、現代人の課題でもあるのだから……。

自然保護の思想は、美しいものや奇妙なものを残そうといった。そんなセンチメンタルなものではない。人間の生活環境としての自然のあり方を求める、人間尊重の、人間に役立つためのものである。したがって博物館こそが、自然保護思想の普及センターとならねばならず、ただ館内の展示・活動だけで事足りるというものでもない。野外にこそ、生きたほんものの自然があり、ほんものの自然学習の場がある。だから附属の施設として、自然保護地域をぜひ持ちたい。人工をいっさい加えない原始自然のままの山岳地帯でも……そしてその一部分だけには歩道観察路を設け、人々の原始自然への郷愁を満たせてくれる……ここに、館内と大自然とが有機的に生きて働く未来の博物館の姿があるのではなからうか。

工芸美術品の陳列について

美濃陶器美術研究家

岩 井 五 郎

工芸美術というも、これを材料別に見ても金工、木(升)工、漆工、石工、皮革工、陶工、染色等と実に膨大なものにて、これをその材料別に博物館に展示するとしても、幾部屋あっても到底収容しきれない。本県は陶工が最も誇るに足り、特に美濃焼が全国にその名をとどろかせている。御承知の通り美濃焼(志野・織部・黄瀬戸)は桃山時代に発祥し、昭和の今日迄盛衰をたどりつつ生産され続け、昭和5年荒川豊蔵氏が、美濃焼の産地が瀬戸であるとの長い期間の誤を、訂正した。即ち美濃焼は美濃で焼かれたものだとの重大発言と、川端康成氏が昭和24年小説「千羽鶴」を発表、それが吉村監督により映画化され、今迄御茶に全く無関心を連中迄にも、志野・織部が認識され、俄に美濃焼陶器が茶陶として注目の的となった。結局当県博物館に飾り立てるのは、陶工中の美濃焼に関する一本に絞るべきと思う。

この美濃焼陳列には最少限度三部屋を要する。第一室は桃山時代、即ち初期の伝世品を並べる。志野・織部・黄瀬戸・美濃伊賀・伊賀織部など。各種類の各器別の作品を陳列す。この作品の借入先は、大垣市、池田文夫氏、岐阜市、宮嶋潤治氏、尾関憲司氏など。第二室は、初期の窯跡の

一 口 法 規

第三条【博物館事業】

7. 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。

叢掘品の陳列、借入先は多治見市の加藤二三郎氏、土岐津市役所など、第三室は初期を除いた江戸中期と後期の作品と現代作家、人間国宝荒川豊蔵氏を初め、下記の諸氏の作品を陳列す。

荒川武夫・荒川達・安藤日出武・安藤光一・浅井祐次郎・市橋敏正・奥磯栄麓・加藤幸兵衛・加藤十右エ門・加藤景正・加藤景秋・加藤卓雄・加藤十鳳・加藤清三・加藤孝造・加藤仁・加藤賢司・熊沢輝雄・小林文一・佐々木正・鈴木差・杉山祐利・鈴木通雄・玉置保夫・近田精治・塚本快示・月形那比古・辻京作・中山直樹・長田豊七・中島正雄・永江陶六・林孝太郎・古川庄作・水野守山・若尾利貞・吉田喜彦 以上



歴史・考古学の 立場から望むこと

濃飛甲冑研究所長

日本博物館協会学芸員 吉田幸平

岐阜県は、日本の中央に位置し、木曾、揖斐、長良の三川を軸とし、山と水の大自然の中に育まれており、古来「美濃を制するものは日本を制す」と、日本を左右する大合戦、即ち壬甲の乱、承久の乱、青野、青墓の斗い、墨俣川の会戦、降って関ヶ原の合戦と斗かわれており、きわめてそのキイ・ポイントを持ってきている。かかる意味で、先史時代より縄紋、弥生時代の遺跡、遺物はもちろんのこと、多くの人間文化を語るものが発掘されており、人工品だけでなく、動物、植物を始め、自然史の資料も多くのもがあり、いかなる自然環境の中で生活し、その環境を克服して行ったか、地域社会の人間文化のあらゆる面を、垂直的、水平的に知る資料は実に沢山ありながら、それを知る方法が総括的にない現状である。

今や欧州と日本の距離は短縮せられ、新幹線によって、岐阜は東京の至近距離に位置づけられた現在、今日を救い明日を創造するもの、それは、過去を知り現在を認識し、明日への生活プランを建てるものでなくてはならない。かかる意味で、博物館は特に人文科学と自然科学の総合博物館が必要である。

岐阜県に博物館施設がなかったため、流失あるいは盗難にあった実例および未整理、未収集の実例の一部を以下に列記してみると、

1. 県外流出資料の例

盗難及び流失例		
考古学資料		
№	場所	資料
1.	岐阜市瑞竜寺山古墳	三角縁神獸鏡。曲玉。その他土器。 岐阜に博物館がない理由で東京博物館蔵。

No.	場 所	資 料
		大和朝廷の同苑鏡として考古学会注目のも の
2	本巣郡糸貫町席田 船木山古墳出土 (昭42.出土)	三角縁神獸鏡。曲玉。直刀。その他土器 前記同様の理由で東京博物館蔵品
3	可児郡可児町久々利出土 (明治頃出土)	大銅鐸 1メートル以上の大銅鐸とその他出土品 考古学的には極めて珍しい大銅鐸だが前 記同様の理由で名古屋徳川美術館蔵
4	坂尻古墳出土	鏡、玉類、石訓、琴柱形、石製品 東京博物館蔵
5	親ヶ谷古墳出土	鏡、玉類、鍬形石、車輪石 東京博物館蔵
6	長塚古墳出土	鏡、玉類、鍬形石、銅鏃、刀、石杵、石訓 石製盆等 東京博物館蔵
7	土岐市発掘	デスモステルス (新生代第三紀中、新生時代に住んでいた 哺乳類)のほぼ完全な化石標本 生物学会、考古学会、 地質学会で有名な化石標本 東京科学博物館蔵
8	小川栄一コレクション盗難 ―(昭44.)	考古学の収集家、研究者として、収集品中 大物3点盗難 (津警察署に検挙)
9	岐阜市梅林 篠ヶ谷 (江戸時代)	銅鐸 京都大学文学部蔵

歴 史 文 化 財 資 料		
№	場 所 、 所 有 者	資 料
10	甲冑(鏡、兜) 美濃国高須藩主所用 (海津郡、海津町)	紺糸威胴丸甲冑 松平摂津守の着用鎧 昭和35年名古屋某氏蔵となる。
11	盗難甲冑(鎧、兜) 未発見 恵那郡岩村藩主所用 岩村八幡神社蔵 (御神体) 昭和40年盗難(時価200万)	岩村藩主 松平和泉守の着用鎧 十王頭付色々威甲冑 日本甲冑史上極めて珍しい史料で、正徳年間修理の記録があり、貴重なもの (未発見)
12	盗難甲冑(鎧、兜) 関市 旗本 大島運八所用 関市下迫間大運寺所蔵 昭和44年3月盗難 (時価250万)	紺糸威甲冑 筋、小星、篠垂と当世具足のあらゆる所法を用い、また総面を附した貴重な史料 昭和45年3月 北九州市小倉にて検挙発見
13	盗難甲冑(鎧、兜) 郡上八幡城 昭和45年5月盗難 (時価150万)	紺糸威甲冑 三領 シーズンオフで管理人不在のため、鍵が破壊された。 青山藩の史料 昭和45年6月 横浜にて検挙発見
14	不破郡垂井町 浅倉 真禅院 仏像盗難	薬師堂 薬師如来仏像盗難
15	不破郡垂井町 国分寺 旧国分寺時代の遺物、盗難	旧国分寺時代の泥塔、煉瓦、古瓦、泥露盤、鬼瓦等 盗難
16	大垣城刀剣盗難	借用陳列中管理人不在のため城壁より昇り、狭間より入り盗難
17	鶺鴒、和傘、提灯、刃物等 産業史料	地域産業史料が未収集未整理

№	場所、所有者	資料
18	木地師、農業資料等 輪中地域、井水地域	民族資料が未収集 (個々においては若干行われているが)

2. 保存を要する資料の例

コレクション (敬称略)		
№	場所、所有者	資料
1	故小川栄一コレクション 揖斐郡大野町	出土土器を中心とする考古学的資料 特に美濃を中心とするもの約一万点 現在、九州、名古屋、ハワイ、その他より 買いにきている。 県外流出を早急に防止の対策が必要
2	故片野温コレクション 安八郡輪之内町	県内の古文書及び古画を多数模写 写真資料 中野楚溪氏と共に生涯をかけた撮影資料
3	恵那郡付知 付知郷郷土博物館 伊藤祐教コレクション	開館一年で経営困難のため閉館
4	福来博士記念遺品 高山市照連寺内	維持困難のため閉館
5	吉田幸平甲冑コレクション 岐阜市岩戸花月町2の1	甲冑武具、軍装、民族資料等1万点 現在一部は関ヶ原ウォーランドに陳列
6	赤坂の化石館 長良の浅見化石館 揖斐の愛石館	維持困難との由 (個人コレクション)
7	瑞浪市 米原操人形	頭80点 衣裳50点
8	本巣郡真正町 真桑文楽 土岐郡日吉 日吉文楽 中津川市川上(カオレ)川上文楽	文楽人形の頭、衣裳、その他文楽に関する もの 三宅文楽、七宗文楽等は明治時代に絶えた

№	場 所、 所 有 者	資 料
9	根尾川上流能郷 能面、能衣裳	能郷神社に伝来する 能に関する一切のもの
10	羽島市 平方勢獅子	民族芸能として特種なもの。
11	郡上郡石徹白	石徹白 上在所の祭舞
12	飛騨 金蔵獅子	各地の獅子舞、その他、山の子祭、ひんこ こ祭等 民族芸能の遺品
13	郷土出身の作家の作品の収集	明治以前の作家 円空など現代作家 熊谷守一 前田青邨 荒川豊蔵
14	人物の伝記資料	県が表彰した人 国が表彰した人についての資料収集
15	スポーツ資料の収集	①第20回国民体育大会は昭和41年岐阜 市を中心に開催されたが、この国体を後 世に伝える資料が皆無の状態 ②オリンピック選手として活躍した兵藤秀 子、沢田文吉、また岐阜野球部の活躍な ど、岐阜県のスポーツのあとづけをする ことが大切であろう。 ③小椋啓二 スポーツコレクションなども展示公開 されなくてはならない。
そ の 他	彫刻、美術、工芸、 古書、古筆、典籍 武具(刃剣、甲冑、銃砲)	

以上は筆者個人の知っている情報にすぎない。

このような事情から判断すれば、文化財的貴重な資料が数多く県外に流出し、学問的価値が、骨董的価値となって、闇に葬られている資料が数多くあると思われるので、流出防止のためにも、

保管する博物館が急務と思われる。

しかしながら、陳列展開するだけでは博物館ではない。生涯教育の場として、過去、現在、未来の岐阜県が展望出来得る陳列体制がとられなくては意味がなく、県立総合博物館の先進県、山口、神奈川、宮城県等を越えるものでありたいし、官僚的運営でなく、民間団体、特に博物館協会との連携のもとに、運営してほしいものである。

県立博物館を頂点にし 地方の施設も共に前進、共に研修!!

秋神温泉旅館経営主

小林 繁



経済成長のおかげか、近年、わたしどもの旅館へ来て下さる若いグループ、家族連れ、などのお客さんがめっきり増えてきました。子どものころから、蝶や植物などの生物が好きだった私は、今、こうして旅館を経営しながらも、何とかして、多くの人々に、自然やこの地の歴史風俗……いわゆるこの地方の人間生活と、それを支えてきた自然風土……について正しく理解していただき、共有の財産として、残していただこうと努力しています。そのために、ささやかではありますが、周囲の植物にはほとんどラベルもとりつけ、自然観察の小路には、小鳥の絵、小動物の絵入りの解説板をとりました。応接室には、植物標本を展示したりして、自然学習への基本的な解説を試みています。

また、昔この地方で盛んだったワラビ粉の製造にまつわる諸民具は、県の文化財にも指定され、水車小屋を移転させて、当時そのままの作業場を再現させています。一部屋は民具の展示室にし、お客さんに自由に見ていただいています。

私たちのささやかなこんな試みが幸いしたのか、今ではこの地を愛して下さる方も数が増え、素朴な飛騨の風土を求めて何回となく訪ねて下さいます。そうした人々に、また初めて訪れて下さった方々にも、ほんとうに正しくこの土地の自然も、歴史も風俗も、全てをよりよく理解していただくためにも、私どもも、毎日毎日勉強していかなくてはなりません。展示の方法や解説板についても、新しい工夫をしなくてはなりません。資料の収集、保管についても、未熟なことはかりです。こんなとき、県に中心となり、指導助言をしてくださるような博物館学の専門機関——すなわち、県立総合博物館があつたらどんなにいいでしょう。県下には、私どものような、全く個人的な施設が、他方面他分野にわたって数多くあるようです。いずれも、専門の博物館学の勉強も経験なく、独学で暗中模索……これらが県立総合博物館を頂点にして、お互いに有機的に結びつき、密接に連絡しあい研修をつんで共に前進したなら、岐阜県の文化施設も一大飛躍するにちがひありません。一日も早い、県立総合博物館の実現を祈ります。

わが国博物館界育ての親



棚橋源太郎伝(4)

岐阜市立長森中学校教諭 学芸員
宮崎 惇

京・大阪の見学

純農家だった源太郎の家でも、畠にワタを栽培して衣類の原料とした。かごを背負ってワタ摘みにいく両親について、真白にみのり秋風にゆれているワタ畠で手伝うのがすきであった。

「ろくろ」からはじきだされるワタの種は、幼い源太郎の手頃な遊び道具になった。

大きくなってからは、この仕事を手伝っておだちんをもらった。ワタ摘みも種とりも、こどもたちの手伝い仕事であった。

綿打屋へだしたワタは、きれいにされてもどってくる。唐黍(とうきび)の茎の先でワタの繊維を棒状にし、これを紡錘(つむ)や糸つむぎ台を使って糸にする祖母に、手伝わせよとねだって、かえって仕事の邪魔をすることもたびたびであった。

わくに取りなおしたもめん糸は「こう屋」へ出して糊付けされ、染められる。これを「はたご」にかけてチャンコ、チャンコと反物に織るのは母や祖母の仕事であった。

このように手塩にかけた布で、母は源太郎らの着物を作った。着物のよこれがかまわず、隣り近所のこどもたちと付近を遊び歩いて一日を過ごすようになった。

どろんこになって小川の魚取りやオタマジャクシすくいもした。螢(ほつたろ)もとった。春先には、みんなといっしょに、かごをもって、す足のまま、田におりて、泥の中にひそむタニシを取り歩いた。タニシのことをツボと呼んだ。

ツボどん ツボどん
どこいきやる
カラスという 黒鳥が
手つつき あしつつき
それがこわさに よういかん

こんな唄を大声で合唱しながら、尻まくりをした着物のすそが泥でよごれていることなど、気にもしないで、かごに半分程とったタニシをうちへ持って帰った。

丸一日、水につけて泥をはかせたタニシを、祖母はうでで、一つ一つ殻の中から身を抜きだし源太郎のすきなセリとタニシの「みそあえ」を作ってたべさせた。西のかわらへ、大きい子につれてもらって、ツクンボ(ツクシのこと)取りやツイバナ(ツバナのこと)取りにもいった。

北方の村にも、ようやく明治文化の息吹きが感じられる頃となり、戸籍改正や郵便事務が行われ、駒来町には取縮局が建った。明治6年には学校をはじめることにもなった。懐中時計を買っ



た人やはいからなランプをつけた人もあらわれた。

父清六の弟、鳥居兵蔵は彦根藩の足輕であった。その頃青年時代の清六は彦根で麴屋に奉公していたので、参勤交代の折、伴揃えにやとわれて、一・二度江戸へいったことがあったが、まだ京大阪へはいったことがなかった。

ちょうど森町出身の角藤某という人が、大阪で人夫口入れ業をしていたので、この人をたよりに京・大阪を見にいくことにした。

子ども思いの清六は4才の源太郎と、まだおむつのいるような要次郎をつれて旅をすることにした。源太郎に外の世界を見せたい一心からであった。当時はもちろん車もなく、わらじばきで幼児をつれての旅は大変であった。

琵琶湖では外輪船に乗った。川と池しか知らない源太郎にとって、琵琶湖の広さは想像に絶するものがあつた。帰ってから、口ぐせのように「ぐみの川は広がつた」と何度も人に話した。海のことを「ぐみ」とまちがえてききおぼえてしまつていた。

一番のおきにいは外輪船であつた。「ゴーヘー」「ストップ」とききおぼえた船長の号令を得意になって付近の友だちや家族に教え、大声で叫んでいた。

「三つ児の塊、百までも」というが、父清六のつた、実際に連れて歩いて、実際に見せて教えるという精神は、源太郎の一生をとおして、その必要性を強調しつづける源となつた。

〔註〕カットの「糸車」の図は、棚橋源太郎先生の屋敷跡におすまいの、親せきにあたられる西垣芳郎先生（岐阜県庁教育委員会教職員課）筆である。

一 口 法 規

第三条〔博物館事業〕

8. 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等、一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。

博物館学メモ②

博物館の定義

博物館の起源は、遠く紀元前300年の頃、エジプトのアレキサンドリアにみられたものの、「博物館とは何か」は、時代とともに、社会の変化に伴って変わってきた。I COM憲章では「博物館とは、芸術、歴史、美術、科学及び技術関係の収集品、ならびに植物園、動物園、水族館等、文化的価値のある資料、標本類を各種の方法で保存し、研究し、その価値を高揚し、なかなずく公衆の慰楽と教育に資するために公開すること

を目的として、公共の利益のために経営されるあらゆる恒常的施設をい〜」と定義している。したがって、公共図書館および文書館、公民館等で常設の展示館、史的記念館および寺社の宝物、宗教的建造物、それに史跡および遺跡、生きているものを展示している動植物園、水族館はもとより、生態飼育園、見本園、さらには自然保護地域および自然景観地域までも含めている。

日本の博物館法は、この ICOM の定義に準拠して作られており、ただ実物標本を保存するための収集と保管、そしてその一部の展示公開に終わってはいけなことをはっきりうたっている。

豊富な実物を有し、それについての専門的な調査研究を充分積み重ね、それを展示し、社会大衆に教育活動をするという近代社会になくはならない社会教育の機関なのである。

いたるところで博物館施設が生まれている今日、それが観光地の客引きや入館料による収入目当ての施設であるのが多い現状を見るにつけ、「博物館の何たるか」を、もっともっと深く認識しなければならない。児童・生徒の教育に携わる教師の中ですら、古ぼけた民具や珍品、こわれた道具等を見ると、「こりゃ、博物館行きや」というような博物館のとらえかた、まず教師に「博物館法」を読んでもらいたい。博物館は、今や施設から抜け出て、人間を育てる教育機関、生涯教育の場でなくてはならない。集まる人間が、年齢に制限もなく、楽しい中に、何ら強制されることもなく、自己教育できるところ、そういう一種の公立学校と同格たらねばならない機関なのである。

(Sab)

~~~~~  
おでかけください  
~~~~~

館 園 紹 介 № 4

神岡郷土館・神岡城

鉦山の町神岡町、その人口の大半が神岡鉦山に従業し、住宅は山あい立ち並ぶ活気ある山の町です。埋蔵鉦量では世界的規模といわれる神岡鉦山は、1.200年も前に発見されたと伝えられていますが、三井の経営に移ったのは明治になってから……………神岡町の発展は名実ともに、三井金属神岡鉦業とともにあったといえるでしょう。

一口法規

第三条〔博物館事業〕

9. 他の博物館、国立博物館、国立科学博物館等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。

そこで、神岡鉦山が三井の経営となってから、ほぼ100年になるのを記念して、三井金属が総工費約9,000万円をかけ、高原川を望む城跡の台地1,200㎡に、郷土館を完成し、神岡町へ寄贈しました。第1期工事は、鉄筋コンクリート2階建て、延べ363㎡で四角のお堂型、丸屋根は銅板一文字ぶきで昭和42年に、第2期工事は、同町割石にあった明治元年(1868)頃の建て物といわれる木造かやぶき140㎡の古い民家に移して、昭和43年に完成、そして、最後の復元城(東町城)も立派に完成し今年(昭和45年)から開館されています。

お堂型の第1資料館は、1階に玄関、ホール、閲覧室、事務室、保管庫、応接室をもち、2階は展示室で、湿気をよばないためにと特殊壁、展示品の変色を防ぐために電球にまで注意がはられ、鉦山史、町史関係の史料展示がされています。

古い民家を移転した第2資料館は、民族館とし、2階、3階は養蚕などに用いられるようになっている。建て物自身も、町文化財に指定されており、かやぶき屋根保存のために、表面は銅板でおおってある。

本館は、約400年前の、東町城とか沖野城とか呼ばれていたものの復元城で、時代考証により石塁、壕、へい、門なども作られています。戦国時代に、武田信玄が上杉謙信に備えるためにきずかれた由緒ある城といえます。二重三層式鉄筋コンクリート作りです。

アメリカあたりでは、企業資本が莫大な資金を投げ出して、数々の博物館を建設し、地域社会の文化向上に貢献しているのですが、日本ではまだまだの感があります。それだけに、三井金属の英断には頭がさがります。全国各地でも、各企業資本が、このような社会奉仕に多大の目を開いてくれることを祈りたいものです。

山都、鉦山の町、神岡町にできた、この神岡郷土館、神岡城……これをただの施設として終わらせることなく、神岡町の諸文化の殿堂として、人間の生涯教育の機関として、生々とした動的な文化施設に育てあげてもらいたいものです。そのためには、新しい博物館学の基本理念に立脚し、専門の職員、学芸員を養成常勤させてもらいたいものです。

なお、問合せ先は、神岡町役場、教育委員会、または〒506-11 吉城郡神岡町城ヶ丘、神岡郷土館神岡城事務局へ。

お 知 ら せ

このたび、名古屋大学教育学部内、東海社会教育研究会に、社会教育施設部会が結成され、9月16日に、発足を兼ねた第1回の研究例会が開かれました。公民館、婦人青少年施設、図書館、博物館など、あらゆる社会教育施設の機能的連携をめざし、(イ)国内外の資料の収集、(ロ)運営についての研究、(ハ)各専門施設職員の研修を事業目標としています。ぜひ、県下からも多数入部されるよう、お勧めいたします。

問合せ先 〒464 名古屋市千種区不老町

名古屋大学教育学部内 東海社会教育研究会

==== 館・園 ニュース ====

☆奥美濃おもだか家民芸館

当家の土蔵を改装し、従来からの収集民芸品の展示変えを行い、6月20日より、全面的に一新しました。六畳間一室は、柳人記念室とし、ここに鮎の絵などを展示しています。

開館時刻 午前9時～午後6時

(盆踊り中は午前8時より)

料 金 大 人 100円

中高生 50円

小 人 30円

連絡先 〒501-42 郡上郡八幡町新町

奥美濃おもだか家民芸館

☆国立科学博物館 1号館1階

「生物の進化」展示が新装になりました。

二年間の準備を経て、4,000万円の費用をかけた「生物の進化」の展示が、この8月よりスタートしました。最新の技術を駆使したすばらしい展示内容、参考になることが多いと思います。上京の折は、ぜひ見学して下さい。参考資料等お問合わせは、

〒110 東京都台東区上野公園内

国立科学博物館 普及課

TEL(822)-0111(大代表)

==== 事 務 局 よ り ====

※会費未納の館園に!!

岐阜県博物館協会の組織の拡充と活動の活発化のためにも、会費未納の館園は至急送金ください。



— 口 法 規 —

第三条【博物館事業】

Ⅱ 博物館は、その事業を行うに当っては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

また、博物館活動、博物館学など、博物館に興味のある方も、個人的にどんどん協会に御加入ください、県内博物館活動に御参加ください。

会費(年額)	公立博物館園	1.500円
	私立博物館園	1.000円
	個人会員	300円

☆送金は、現金書留ないしは、郵便振替でお願いいたします。

振替番号	名古屋 28716
	岐阜県博物館協会あて

☆会員には、機関誌「岐阜の博物館」(年6回発行)をお送り致します。

※会員研修会の計画について

社会の進展とともに、博物館は、ただ収集した品物を並べ、解説を付けて見せるだけではすまされなくなりました。万博会場で御覧になったように、大衆に物を見せる展示方法についても、今や科学技術の最先端を導入し、著しく進歩してきました。新しい時代の社会の要請に答えるためにも、県内の各館園も、日夜御努力されていると思います。協会でも年に2回は、研修会を計画し、お互いの館園の展示、収集保管、教育活動その他、当面する諸問題の研究方法を検討中です。実施の折には、多数御参加くださるよう、今からお願いしておきます。

※棚橋源太郎先生の業績のまとめ

宮崎惇先生の御努力により、本誌に連載中の「棚橋源太郎伝」で御承知のように、棚橋先生は、岐阜県の生んだ世界的な博物館界の偉人で、その生涯の大半を博物館事業の振興に捧げられました。当協会でも、宮崎惇先生を中心に、棚橋先生の業績をくわしくまとめております。棚橋先生に関する資料でしたら、思い出話、書簡、写真、その他何でも結構です。お気づき、御持ちの方は、ぜひお聞かせ、または資料をお貸し下さい。

連絡先	〒501-61	岐阜県羽島郡笠松町米野
		宮崎 惇 まで

※館園ニュース原稿のお願い

館園の横の結びつき、交流を深めるために、小誌では館園ニュース欄を設けています。新しい資料、展示、開館時間、料金変更、人事の異動、その他、どんどん記事をお寄せ下さい。

※セミナーに参加下さい。

皆さんも御存じの日本モンキーセンター附属博物館では、「博物館学セミナー」を催され、既に60回に及んでいます。9月には、下記要領により、岐博協と合同セミナーを開くことになりました。多数御参加下さい。

日 時 昭和45年 9月27日(日)
午後1時～4時
場 所 日本モンキーセンター内
ビジターセンター集会室
内 容 自然保護教育センターとしての博物館

==== 編 集 後 記 ====

※特集号をやっとお届け致します。お忙がしい時間をさいて、小誌のために原稿をお寄せくださった諸先生がたに、改めてお礼申し上げます。4-5合併号としました。

※編集室としては、歴史、考古、美術、民俗、民芸、自然科学の各分野、それにいろいろな立場の方々へと、広く原稿を集める計画で進めてきましたが、結果的には、自然科学関係の内容のものばかりが寄せられました。

「総合博物館」とは何か……にも、また、多くの議論がありますが、人文社会科学、自然科学、いずれも同じように大切であることは当然です。

※博物館は、もはや収集品の保管倉庫や、物の陳列場ではありません。お寄せいただいた各先生方の御意見の中にも、そのことが共通して強調されています。わたしたちの科学的、文化的な社会生活にはどうしてもなくてはならない、知識と情操の泉、それが博物館なのです。

ひとりでも多くの県民が、ひとりひとりの夢を出しあって、「これこそ、教育文化県—岐阜県の誇りだ!!」といえるような、県立総合博物館を実現させましょう。

※本誌5号以降でも「県立総合博物館に望む」御意見は載せていきます。いろんな立場から、どんどん原稿お寄せ下さい。

※ここに特集しました御意見は、いずれも既存の各館園にも参考になる内容が多いと思います。どうか、ひとつひとつよくお読み下さい。

編集委員 小野木三郎、宮崎 惇、吉田幸平